第63回 全国学生合気道演武大会

73団体約600名



植芝本部道場長の総合演武



植芝道主

第63回全国学生合気道演武大会（主催＝全国学生合気道連盟、後援＝スポーツ庁、読売新聞社、〈公財〉日本武道館、日本武道協議会、〈公財〉合気会、全日本合気道連盟）が、11月30日（土）、日本武道館で開催された。本大会は、全国学生合気道連盟に加盟している大学が参加する、年間で最も大きい大会で、今年は73団体、約600名が演武を行った。

開会式で全国学生合気道連盟会長・植芝守央道主が「第1回大会から各代の皆様方が自らの手で企画・運営をされ、情熱を持って取り組んでこられてきたことが連綿とつながっていることは大変素晴らしいことであると同時に、意義あることです。ぜひこれからも前に向かって進んでいただきたいと思います。

現在、合気道は世界約140の国と地域、国内約2400の道場・団体が大学合気道部も含めて登録されています。このように合気道の大きな輪が出来上がったのは、開祖・植芝盛平翁が創始した合気道の素晴らしさ故ですが、その素晴らしい合気道を吉祥丸二代道主のもと先達の方々、今日の皆様がしっかりと稽古し普及・振興に関わっているからです。その中で大学合気道部の方々が、卒業後も各地域で日々合気道を大切にされ稽古されていることが国内の拡がりの大きな要因であると言っても過言ではありません。

皆様方にはぜひいいものをいい形で次の代へと受け継いでいただきたいと思います」と挨拶された。この後、尾﨑晌全国学生合気道連盟顧問の挨拶、元国務大臣・（公財）合気会理事山谷えり子参議院議員、赤沼二己男（公財）合気会理事の来賓祝辞、来賓紹介があった。

大会は第一部と第二部に分かれており、第一部の終了後には、合気道本部道場師範、小山雄二先生による稽古錬成が行われた。200名以上の学生が参加し、先生のご指導のもと、出身の異なる学生同士が組んでともに稽古を行った。普段の稽古では得られない全国の大学との合同稽古は学生の目線を揃え、意欲の増加につながった。

第二部の終了後には、合気道本部道場長・植芝充央先生による総合演武が行われた。

道場長の演武を間近で見られる大変貴重な機会で、学生は多くの学びと刺激を受けることができた。

本大会は、学生たちが日ごろの稽古の成果を発揮し、また全国各地の団体の演武を見て学ぶまたとない機会となった。この大会を通じて、今後、学生合気道がますます発展していくことに期待したい。

（全国学生合気道連盟　委員長　渡邉啓詞）



整列する演武者

各地区学連浚刺と

《関西学連》

第60回関西学生合気道演武大会が、10月26日に吹田市立武道館洗心館にて開催されました。本大会には連盟加盟校のうち、10団体146名が参加しました。合気道本部道場より、植芝充央本部道場長にお越しいただきました。

演武大会の前には、合気道講習会を開催し、植芝先生にご指導いただきました。すべての技に共通する合気道の基本についてご教示いただき、学生同士で活発な稽古が行われました。今後、合気道の稽古を続けていくうえで貴重な財産となる時間になったと思っております。

演武大会では、どの大学もそれぞれの特色を出しながら、溌剌とした演武を披露しました。

植芝先生の模範演武では、「基本」を徹底的に大切にされた演武を拝見することができました。講習会で教わった基本の重要性を、演武を見た学生全員が強く感じたことと思います。（関西学生合気道連盟事務局）

《北海道学連》

北海道学生合気道連盟は、10月12日、北海道大学武道場（北海道札幌市）にて入江嘉信本部道場指導部師範を迎え、令和6年度北海道学生合気道連盟秋季講習会並びに第18回北海道学生合気道演武大会を開催した。

午後1時10分から入江師範指導による講習会を行い、学生だけでなく、各大学の師範・指導者・社会人OBも参加し、総勢約50名で稽古を行った。

演武大会は午後3時より行われ、一年目の学生は基本演武、二年目以上の学生は自由演武を披露した。

（北海道学生合気道連盟委員長　山本遥穂）

《中・四国学連》

第51回中・四国学生合気道演武大会は、10月19日、香川県立武道館にて開催された。

演武大会に先立ち講習会が行われ、藤巻宏本部道場指導部師範のご指導の下、48名の学生が参加し約1時間行われた。

演武会には中・四国学生合気道連盟の8校と賛助演武として、東北・関東・中部・関西・九州地区の学生合気道連盟委員長、銀河学院中高等学校が演武を行った。（中・四国学生合気道連盟委員長　戎子由夏）

《中部学連》

第53回中部学生合気道演武大会は、11月9日名古屋市のパロマ瑞穂アリーナで行われ、連盟加盟の9団体から120名が参加した。

演武は基本演武から始まり、各大学が指定技を演武した後、各大学による自由演武（前半）が行われた。その後賛助演武として東北、関東、関西、中・四国、全九州各学生連盟の演武、春日井高校と愛知高校による高校生演武が行われた。

後半は違う大学で受け取りを行う交流演武、自由演武（後半）が行われた後、金澤威本部道場指導部師範による基本技の入身投げ、四方投げ、小手返し、回転投げ、一教から四教をそれぞれ行った後、自由技の模範演武が展開された。

道主が綾部市で墓参り



道主を中心に参列者

植芝守央道主は11月8日、植芝家のお墓参りのため京都府綾部市を訪問した。

植芝道主は大本の「みろく殿」、20世紀最大級の木造建築とも称される「長生殿」にて参拝。その後、植芝家のお墓がある「天王平」に移動した。

秋晴れの下、植芝道主、大本関係者、相生會会長の堀井悦二師範、恒心道場の大坂恒師範、恒心道場の会員等約15名が墓参した。

また、墓参後には由良川沿いの会場に場所を移して直会が行われ、綾部市と植芝盛平翁の繋がりに思いをはせて歓談したほか、合気道の普及振興に関する情報交換等がなされた。

植芝道主は「10月、東京にて第14回国際合気道大会が開催された。同大会には国際合気道連盟発足当時の1970年代には合気道が広まっていなかった中東・アフリカの国々からも参加があった」と述べ、合気道の輪がますます広がっていることを強調した。

◇本部道場の年末・年始行事予定◇

12月25日（水）　稽古納め
12月26日（木）　大掃除　9：00～12：00
12月31日（火）　越年稽古　23：30～0：30
〈令和7年〉
1月6日（月）　稽古始め
1月11日（土）　全国道場・団体連絡会議　14：30～16：30
新年賀詞交換会（京王プラザホテル）17：00～19：00
（朝9時以降の本部道場の稽古は全てお休みです）
1月12日（日）　鏡開き式　14：00～
1月20日（月）～1月29日（水）　寒稽古

入身転換

第63回全国学生合気道演武大会が先月末に日本武道館で開催された。コロナ禍での中断はあったが、学生達の運営・進行がうまく引き継がれているようだった。昨年に較べ演武者も増えた。多くの大学が出場者を大幅に増やしていた。その為か昨年以上に活気溢れる演武大会となった感があった。第一部と第二部の間で小山師範の稽古錬成があって、最後は本部道場長の総合演武で幕を閉じた。学生達は合気道三昧の充実した一日を過ごすことが出来たのではなかろうか。

話は変わるが、先月初めにイタリアのポローニャへ行った。1964年に多田師範がイタリアに行かれて60年になり、イタリア合気会60周年行事が行われた。参加者総数は1200人で日本から約100名が参加した。

イタリア合気会の歓迎振りは凄く、本部道場長に対しても多田師範に対しても講習や演武が終わったあとの拍手は鳴り止まず、本人達が控室に入るまで続いていた。更には畳をたたく人もいて館内に鳴り響いていた。

イタリア合気会側の師範の講習がいずれも体操や呼吸法を含め、まるで日本で稽古をしているような錯覚に陥るほど違和感のないものだった。合気道がしっかりとイタリアに根付いていることを実感した。

イタリアから日本に戻って最大のニュースはやはり米国大統領選挙でトランプ氏が勝利したことであろうか。気候変動問題への取り組みはトランプ氏の登場で進展が滞りそうだ。一方で、トランプ氏はロシアによるウクライナ侵攻の終結に意欲を示しているようだ。いずれにせよ目が離せない。

（可児　晋）

合気道新聞
毎月10日発行
発行所
東京都新宿区若松町17番18号（郵便番号162 0056）
公益財団法人　合気会
（合気道本部道場）
編集人　可児　晋
電　話03（3203）9236（代表）
FAX03（3204）8145
購読料
1ヵ年　2,800円
郵便振替
00150－0－49527番
ご購読は、なるべく上記振替口座をご利用下さい

道歌

向上は
秘事も稽古も
あらばこそ
極意のぞむな
前ぞ見えたり

第12回 全国指導者研修会

第12回全国合気道指導者研修会は11月1日から3日まで日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）にて開催された。（主催（公財）日本武道館、（公財）合気会）本研修会は学校教育における合気道の指導法に関する実技と講義を行い、学校における合気道の指導の充実に資することを趣旨に行われた。


植芝道主を中心に全国の指導者たち

特別講師として植芝守央合気道道主、講師として立木幸敏国際武道大学体育学部武道学科教授、園部豊帝京平成大学人文社会学部経営学科准教授、佐藤貴東京都立農産高等学校保健体育科主任教諭、尾﨑晌全日本合気道連盟理事長、林典夫（公財）合気会常務理事、金澤威本部道場指導部師範、日野皓正同師範、梅津翔同師範、助講師として中村仁美同指導員を迎え、保健体育科教員・学校関係者14名、全国の都道府県より連盟関係者43名が参集した。

1日の開講式では主催者として植芝守央道主が「平成24年より中学校で武道が必修化されてから、現在約70校が合気道の授業を実施しております。まだまだ少ないのが現状です。研修会を地道に重ねていく事が大切ですので、皆様におかれましては研修会での内容を汲み取って実りあるものにしていただきたい」と挨拶。続いて片岡正徳（公財）日本武道館事務次長より「本事業は実技と講義を行いながら学校での合気道指導者の資質の向上を目指しております。資質の向上を図りながら3日間有意義に過ごしていただきたい」と挨拶があった。

研修会は道主による合気道についての講義で始まった。合気道の歴史、稽古方法、技法の説明があり、どのように稽古が展開されているか示された。

次に金澤師範による「中学校授業への導入について」が行われ、礼法、構え、体捌き、後ろ受け身等の基本動作を確認し、角落し、小手返しの技法を行った。

その後、立木教授による講義「外部指導者の心構え」が行われた。講義では課外活動（部活動）の位置づけ、学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインの主な内容、教職員と外部の指導者との協働体制の構築等が解説された。

2日は中村指導員による中学校合気道指導法①、梅津師範による中学校合気道指導法②が行われ、保健体育科教員と学校関係者を対象に中学校武道授業に即した各技の指導法が行われた。また、都道府県連盟関係者は尾﨑理事長の司会進行による全国指導者研修①に出席し、「学校要請にこたえられる指導者の育成（指導者の心構え、倫理感等）」をテーマにグループ毎に分かれて話し合い、発表が行われた。

午後は園部豊准教授による「主体的な学びを促すアプローチ」の講義が行われた。講義は主体的な学びを促すための基礎知識、主体的な学びに必要なコミュニケーションスキルについての解説の後、指導者は学習者のチャレンジする行動を導き出すことを目標にグループワークが行われた。

続いて日野師範による「中学校合気道指導法まとめ」の実技が行われ、指導法①②を総括した。

その後、模擬授業が行われた。模擬授業は体育教員、ティームティーチング、外部指導者による3種類の形態で行われた。体育教員による授業を都立農産高等学校佐藤貴保健体育科教諭、東京都立稔ヶ丘高等学校高木昴星保健体育科教諭、ティームティーチングによる授業を都立農産高等学校の黒井南々子保健体育科教諭・中村指導員、外部指導者による授業を梅津師範が担当し、各担当者は状況を説明し授業の展開の仕方を提示した。

なお、実技①②では令和元年10月に合気会から発行された合気道指導の手引第3版をもとに行われた。

3日は林常務理事の司会進行のもと全国指導者研修②「学校授業の事例報告」が行われた。実際に授業を行った高知県立盲学校と葛飾区立上平井中学校での合気道の授業を始めた経緯、授業内容、生徒の反応の報告があった。

閉講式では主催者を代表して林常務理事より挨拶があり、受講者代表に修了証が渡され3日間の研修会が閉会した。

千葉県連、創立40周年

演武大会に47団体600名


植芝本部道場長の総合演武

千葉県合気道連盟（以下千葉県連）創立40周年記念を祈念する第13回の千葉県連演武大会が、11月10日千葉市稲毛区の千葉県総合スポーツセンター武道館にて行われ、47団体約600名が参加した。

来賓には合気道本部道場植芝充央道場長、公益財団法人千葉県スポーツ協会山﨑成夫専務理事、全日本合気道連盟尾﨑晌理事長、東京都合気道連盟藤城清次郎理事長、神奈川県合気道連盟今崎正敏理事長、同山本洋事務局長、埼玉県合気道連盟吾妻正義理事長が出席された。

開会式では、千葉県連副会長兼40周年記念事業実行委員長の乾泰夫師範が開会を宣言後、主催者を代表して、千葉県連高橋嗣慶会長が挨拶を行った。

次に、植芝本部道場長が「この度は千葉県連の創立40周年誠におめでとうございます。

この演武大会が皆様のこれからの稽古の礎になること、そして、これから先、連盟の輪がさらに広がっていくことを願っています」と祝辞を述べられた。

演武では三つの演武場が設けられ、大人の演武と子供の演武が織り交ぜられながら進行した。大人達が落ち着いた演武を披露すれば、子供達の溌溂とした演武もあり、さらに各道場の師範は熟達した演武を披露した。また神奈川県の今崎理事長と山本事務局長、埼玉県の吾妻理事長による賛助演武も行われた。

そして演武会の最後には、締めくくりとして、植芝本部道場長による総合演武が行われた。

道場長の気迫と演武を見る参加者の真剣な眼差しで会場は張り詰めた空気で満たされた。

その後閉会式に移り、千葉県連寺本広道理事長より謝辞が述べられた後、演武大会は閉会となった。

その後場所を移して、ホテルポートプラザちばにて祝賀会が開かれ160名が出席した。

祝賀会冒頭、主催者挨拶として、高橋会長は「私達の役目は合気道の技と心を次世代に継承していくことだと思っています。この40周年を機にその二つをしっかりと身につけて、次の50周年に向けて頑張りたいと思います」と述べた。

次に植芝本部道場長は「発足当時より連盟の役目は増えていると思います。是非手を取り合って様々な場面で連盟が活躍できるようにしていただきたいと思います。これからも合気道の精神を大事にし、未来に向かって活動されることを願っております」と祝辞を述べられた。

来賓には演武会の出席者に加え、熊谷俊人千葉県知事も出席された。

熊谷知事は「千葉県連の創立40周年誠におめでとうございます。40年前は千葉県の人口が500万人を突破し現在の千葉県の骨格が作られた時期であり、量的な拡大がひと段落し、今度は内面、質の時代に突入していました。

そうした中で、各団体が各地域で青少年を含めて心身の鍛錬を積み重ねていただいたことは大変意義深いものだったと思っています。

また現在はすぐに結果を求める時代に突入していると感じています。そういった時代において、すぐに変化が出なくとも、静かに内面で変化を起こす習い事が今まで以上に大事になってくるのではないかと思っています」と祝辞を述べられた。

乾杯は全日本合気道連盟尾﨑理事長の発声で行われ、祝賀会参加者は和やかな空気の中で親交を深め、次の50周年に向けて気持ちを新たに団結を強めた。

（合気道本部道場指導部指導員有馬隼人）

千葉工大、60周年祝賀会



道主を中心に

千葉工業大学体育会合気道部創立60周年記念祝賀会は、植芝守央道主をお迎えし、11月9日に習志野市の大学構内に於いて開催された。

来賓として、故有川定輝師範が組織した7大学学生合気道連合会の参加団体から、法政大学と東海大学の各合気道部師範や、千葉工大合気道部創設者で大東流合気柔術本部総務長の近藤勝之特別顧問ほか、全国から約60名のOB・OGが参加し、久しぶりの再会に旧交を温めあった。

植芝守央道主は祝辞の中で「植芝吉祥丸二代道主が学生に対する合気道の普及に生涯心血を注ぎ、学生合気道部の数を増やしてきた。その流れの中で、大学当局の理解とOB・OGをはじめとする関係各所の種まきがあったからこそ千葉工大合気道部が60年の歳月を重ねてこられた。令和2年から新型コロナ感染症により稽古がままならない状況の中で、7大学学生合気道連合会の合同稽古を千葉工大武道場で開催するまでに乗り越えられたことは嬉しい限り」などと述べられ、現役学生の更なる努力を奮起する、暖かい期待の言葉も伝えられた。

当日は祝賀会のほかに、千葉工大合気道部の峯和夫師範による指導のもと、青森県合気道連盟会長の米谷恵司氏をはじめ、各地で稽古を続けているOB・OGと現役学生との合同稽古を行い、互いに気概を高め合った。

また、祝賀会参加者には植芝守央道主の祝辞を賜った60周年記念誌が贈られ、10年20年後の再会を期して会は成功裏に幕を閉じた。

（習志野合気親和会（OB会）会長　藤田崇広）

獨協大学、60周年祝賀会


勢揃いした参加者

獨協大学合気道部創部60周年祝賀会が、10月12日獨協大学コミュニティスクエアにて行われた。

祝賀会に先立ち獨協大学にて稽古が1時間行われ、現役生の他、OB・OG含め約40名が参加し汗を流した。その後場所を移し祝賀会が行われた。

祝賀会には、創部メンバーである1期の先輩から現在の61期まで約100名の方が参加された。

創部当時のお話から当時の写真を使ったスライドショーなどが行われ、参加されたOB・OGの方は当時を懐かしみ思い出話に話を咲かせていた。

また今回、13年間OB会長を務められた須藤正則会長がご勇退された。須藤会長にはこれまでの感謝を込めて花束の贈呈が行われた。

最後には現役生への励ましの言葉が贈られ、式は盛会の内に幕を閉じた。

新潟合気会 演武会・講習会

新潟合気会は、10月19・20日に演武会・講習会を新潟市鳥屋野総合体育館にて行いました。櫻井寛幸本部道場指導部師範を迎え、盛大に開催されました。県内外から50名を超える熱心な参加者が集い、心技体を磨く貴重な機会となりました。

講習会は、縦の線横の線を意識するであったり、相手の捉え方など師範の今考えていることを指導いただきました。参加者は日頃の技の細部を見直す貴重な時間を過ごしました。

演武会では、普段の稽古の成果を発揮し思う存分演武することができました。最後に櫻井師範による演武で締めくくり、素晴らしい演武会となりました。

この2日間は、合気道の技術向上はもとより、参加者同士の絆を深め、合気道の精神をより一層理解する機会となりました。（新潟合気会事務局長　玉木駿佑）

イタリア合気会60周年記念講習会

11月1日から3日にかけてイタリア合気会の創立60周年を記念する講習会が、イタリアのボローニャで開催された。

イタリア合気会は1964年にイタリアに渡った多田宏師範が、同国における合気道と日本の伝統文化の普及を目的に創設された。1978年にその活動が認められ、イタリア政府の認可により財団法人となった。現在2000以上の道場が開かれている。

講習会には植芝充央本部道場長が招かれ指導されたほか、イタリア合気会創設者で現在は名誉会長を務める多田師範、イタリア合気会の指導部、日本から招かれた野本純師範、今崎正敏師範、後藤喜一師範が指導を行った。


植芝本部道場長による指導

植芝道場長は1日目に正面打ちと横面打ち、2日目に片手取りと両手取り、3日目に後ろ両手取りと諸手取りの技を指導され、それぞれ取り方が違っても基本的な体捌きは同じであり、その基礎となる部分を疎かにしないことを強調された。

講習会の参加者は1200名にのぼり、会場は参加者で埋め尽くされる中、スペースを探しながらも受身を取り、精一杯の稽古を行なった。イタリア国外からはフランス、ドイツ、スイス、チェコ、スロバキアなどの近隣諸国から参加があり、日本からも多田師範が指導されている道場を中心に約100名が講習会に参加した。


多田本部師範による指導

2日目の午後には演武会が行われた。最初にイタリア合気会の少年部約30名が普段の稽古の様子を披露し、次に大人の一般会員、国外の参加者、イタリア合気会の指導部、日本人指導者、多田師範の順に進行し、最後は植芝本部道場長による総合演武で締めくくられた。


左から植芝本部道場長、多田師範、千葉大使

演武に際し植芝本部道場長は「この度はイタリア合気会創立60周年を心からお慶び申し上げます。多田師範がイタリアにまいた合気道の種が大きく広がったことを今回の講習会で改めて実感することができ、非常に嬉しく思います。この講習会と演武会が皆様にとってこれからの稽古の糧になること、そしてイタリア合気会の益々の発展の礎になることを願っています」と挨拶をされた。

3日目の夜には祝賀会が開催され、140名が参加した。合気会からは植芝本部道場長と可児晋（公財）合気会理事が出席した。

開会にあたり、イタリア合気会のアルベルト・コンベンティ会長は「イタリア合気会60周年を記念するこの場に、皆様にお集まりいただき大変光栄です。イタリア合気会は60年という長きにわたって活動を続けて来ましたが、一人の指導者に恵まれたことは非常に貴重なことであり、感謝を申し上げます」と挨拶を行った。

次に多田師範から「60年にわたって合気道が広がったことを非常に嬉しく思います。我々に大きな力を与えてくれたイタリアの大勢の友人たち、また日本から来て一生をイタリア合気会の発展に尽くした日本の指導者たちにも厚く御礼を言いたいと思います。

合気道開祖植芝盛平先生は、合気道は人生に活かしたとき本当の合気道になると言われました。これからも一生懸命皆さんと一緒に稽古して、イタリア合気会がますます発展することを心から願っています」と祝辞が述べられた。

さらに月窓寺住職村尾泰隆氏から「イタリア合気会60周年誠におめでとうございます。話す言語は違ってもここにいる皆さんは合気道という共通の言葉を持っていると思います。その言葉をもって日本とイタリアを繋いで、これからも仲良く活動していっていただきたいと思います」と述べられ、月窓寺からイタリア合気会に寄付金が贈られた。

その後、植芝本部道場長の発声で乾杯が行われた。

祝賀会も講習会同様に活気に溢れ、参加者同士で記念撮影が行われたり、主催者であるコンベンティ会長と事務を担当したサブリナ氏に日本人グループからプレゼントが贈られたりした。

また、祝賀会の終盤には60周年を記念するスペシャルケーキが会場に運び込まれ、植芝本部道場長、多田師範、コンベンティ会長による入刀が行われ、佳境を迎えた。午後8時に始まった会もあっという間に時間が経ち、名残を惜しみつつ閉会となった。

翌11月4日にはローマに移動し、千葉明駐バチカン日本国特命全権大使から招待を受け、植芝本部道場長、多田師範、コンベンティ会長などイタリア合気会が大使公邸を訪問した。千葉大使は公務の傍ら各地で合気道の稽古を続けられ、今回の講習会にも参加されていた。出席者は食事を交えながら懇談し、親交を深めた。

今回の講習会で最も印象的だったのは、多田師範の演武後、会場が大喝采に包まれたことだ。イタリア合気会会員の言葉では語り尽くせない多田師範への気持ちがそのような形となったのだと感じた。そしてその空気を肌で感じることができたことは、私（有馬）にとって大変貴重な経験であった。

（文責：合気道本部道場指導部指導員　有馬隼人）


櫻井師範の指導

ベトナム派遣日本武道代表団



小野総領事を中心に合気道のメンバー

令和6年度ベトナム社会主義共和国派遣日本武道代表団は11月6日から12日までホーチミン市に、高村正彦（公財）日本武道館館長・日本武道協議会会長を団長に現代9武道と古武道3流派より事務局を含め総員70名が派遣された。合気道からは藤巻宏本部道場指導部師範、日野皓正同部師範、中村仁美同部指導員、合気会会員の高田雄生氏、畠山光子氏、石山琢真氏が参加した。

出発に先立ち11月6日にホテル日航成田で行われた結団式・壮行会では川端達夫（公財）日本武道館・日本武道協議会理事長より「日ごろの稽古の成果を十分に発揮され、有意義な派遣にしてください」と壮行の言葉があった。

11月7日、午前中には本派遣の記者発表があり、高村団長、小野益央（おのますお）駐ホーチミン市日本国総領事、各道・流派代表が出席。本派遣についてホーチミン市へアピールを行った。

午後よりホーチミン市体育師範大学で実施された武道セミナーでは、約600名の学生や大学職員に対し、柔道代表岡田弘隆先生による「講道館柔道の歴史」と題した講演と各道・流派の演武披露、ワークショップが行われた。

夕食はホーチミン市総領事公邸にてウェルカムパーティーが行われ、小野総領事より「日越外交関係樹立50年を迎えました。日本武道を通じて、今後益々の友好に繋げたいと思います」と歓迎の挨拶が述べられた。

11月8日、ホーチミン日本人学校で実施された武道交流演武会は、小中学生と教員ら700名近くが観覧。演武披露と代表児童生徒らによる武道体験が行われた。

11月9日、市内武道施設にてホーチミン市合気道連盟との交流稽古を行った。稽古に先立ち、ホーチミン市日越友好協会加盟の式典が同協会ファン副会長臨席のもと行われた。その後、藤巻師範による基本技を中心とした稽古が約1時間半あり、藤巻師範は姿勢や基本動作の重要性を確認した。ホーチミン市などベトナム南部や日ごろ交流のあるカンボジアから100以上が参集。

11月10日、市内スポーツセンターにて武道演武大会が行われ、2000席以上ある観覧席は埋め尽くされ、立ち見や出入りを含めて約2500名が観覧。合気道、柔道、剣道、空手道（演武順）はベトナム会員による演武も披露された。

同日行われたフェアウェルパーティーでは高村団長より「大勢のホーチミン市の方々に日本武道を紹介でき、確かな手応えを感じています。昨年の外交関係樹立50年を機に、これからの50年を更にお互いに友好関係を高めあえるように皆様と協力いたしましょう」と挨拶。翌日解団式が行われ本派遣は満了した。

ポーランド講習会

私（櫻井）はAAIポーランド講習会のため、ポーランドのオルシュテインを訪れた。オルシュテインは首都ワルシャワから車で3時間程北部に位置する。

講習会は10月18日から20日に2、3時間のクラスを計5回行い、約100名の参加があった。

今回は10代の参加者が多かったので基本的な動きを確認し、それに応じた受け身の稽古を重点的に行った。充実した講習を終えて、良い時間を過ごすことができた出張となった。（本部道場指導部師範　櫻井寛幸）

エルサルバドル
山水会25周年

私（栗林）は、10月10日から15日まで、エルサルバドル山水会（アルマンド・デラ・ロサ指導員五段）創立25周年記念行事と故山田嘉光師範を偲ぶラテンアメリカの山水会行事のため、中米エルサルバドルの首都サンサルバドルを訪問した。

山水会は故山田師範のお弟子さん達の友好交流団体であり、昨年コロンビアの首都ボゴダでラテンアメリカ各国の山田師範門下生が一堂に集まり、山田師範を偲びつつ今後のラテンアメリカ各国の合気道普及と振興を図る事を目的として第1回合同セミナー・演武大会が開催され、今年はエルサルバドル山水会の創立25周年と重なる事から、サンサルバドルでの開催となった。また、エルサルバドル唯一の合気道団体指導者であるアルマンド氏が、日頃から在エルサルバドル日本国大使館と緊密な関係を保ってきた事も有り、今回私の訪問に際しては、日本大使館に全面的にご支援頂く事となった。

講習会は日本大使館のご後援のお陰で市内にある国立総合スポーツセンター内の体育館に畳を敷き詰め、のびのびと稽古する事が出来た。今回エルサルバドルの会員はもとより、メキシコ、ブラジル、プエルトリコ、エクアドル、コロンビア、チリ、アルゼンチン、コスタリカ、ドミニカ、更に遠くカナダや日本から70名程の参加者が集まり、3日間に亘り熱心に稽古に励んだ。


栗林師範の指導

10日には星野芳隆駐エルサルバドル日本国特命全権大使のお招きで大使公邸に於いて昼食会となり、アルマンド氏や片腕であるラリザ先生と共に、エルサルバドルの合気道の現況や今後について情報交換をさせて頂いた。

講習は11日夕方から13日午前中まで、1時間づつ計8回われ、私の他にラテンアメリカ山水会の重鎮でもあるチリのエルソン師範（六段）と地元のアルマンド先生がそれぞれ担当した。また、12日午後には星野大使ご夫妻やエルサルバドル柔道連盟、空手道連盟、剣道連盟の代表者もお招きして、エルサルバドル山水会の少年部会員と各国代表が演武を披露した。この模様は地元のテレビや新聞でも大々的に取り上げられ、今後のエルサルバドルでの合気道普及の大きな足掛かりになる事が期待される。

（本部道場指導部師範　栗林孝典）

合気道を正課に採用している
日本体育大学
国際武道大学

各道場の昇段者

令和６年10月15日～11月14日
(公財)合気会登録

【四段】
◆つくば牛久合気道友会＝鼻和秀幸◆合気道瀧田塾＝田中邦美◆下町同好合気会＝内田恒次◆合気道研修館＝鈴木克明◆SCグローバル合気道“絆”会＝濵野晶彦◆小田原合気会＝井田英寿、佐藤敏行◆湘南翡翠合気道クラブ＝馬場勇光◆祥平塾＝C.Egan、S.Riazi、D.Bassewitz、麻生誠◆合気道新日本祥央会＝保坂雅夫◆合氣道渋谷＝加藤将彰◆時空館道場＝原智子◆相模和道会＝S.Tammioja◆大手前学院＝平林憲登◆天白道場＝池上博樹◆合気道敷島塾＝川口則博、坂﨑航◆葉山町合気会＝髙松和紀◆合気道平成会＝梅村裕奈◆兵庫合気会＝二谷剛範、横山和彦◆守清館＝又村敦◆合気道敬道館道場＝西野静恵◆綾瀬市・海老名市合気会＝小林孝夫◆小林道場＝M.Turner、U.Zsolt◆かながわ合気道会＝野本英男◆ECUADOR＝J. Alcantara◆BRAZIL＝I. Menezes、W.Pistori、C.Rosalino、R.Costa、F.Bastos◆U.S.A.　＝A.Milton、M.Menendez、S.Spence、I.Wallimann、D.Kohls、N.Levine◆ARGENTINA＝E.Pidemunt、S.Sajaroff、M.Sapienza、A.Diaz、A.Gimenez、M.Blake、G.Conti、R.Barroso◆EGYPT＝M.Mahmoud、I.Nosseir、T.Shafey、A.Magdy◆RUSSIA＝E.Pushkar、I.Lebedev、A.Ahmedova、A.Popko、A.Zhdanov◆PHILIPPINES＝F. Fuentes◆TATARSTAN＝I. Sharafutdinov◆TUNISIA＝N.Omrane、W. Karbia、C.Mahmoud◆U.K.　＝P.Milburn◆UKRAINE＝A.Garaiev、G.Motorenko◆SWITZERLAND＝F.Borgeaud、R.Schmitt、B.Baczek、S.Ryser、C.Reber、M.Mayor、A.Martinez◆POLAND＝W.Holubowski

【参段】
◆合気道凱風館＝李定安、山口嘉朱代、酒井康裕◆武産浦帆道場＝岩﨑雅之◆鍬守道場＝渡邊明香◆群馬合気会＝高瀬照雄、小林保雄◆合気道研修館＝粟野康隆◆広島合気会＝三谷篤◆合気道武友会＝溝口潤◆合気道四日市合気会＝亀井賢次◆小田原合気会＝土方彪悟◆湘南翡翠合気道クラブ＝加藤仁◆祥平塾＝中尾幸子、上田貴哉、F.Teleg◆城東誠和会＝渡邊悦史◆神氣館＝武居工◆竹豊館＝馬淵泰孝◆無門館＝佐藤行真◆目黒中央体育館合気道教室＝鈴木顕◆合気道光輝会＝綿井英吏子、景方雅博◆兵庫合気会＝石崎真一郎◆五十嵐道場＝村上博之◆中村南合気会＝茂村智己◆紀州熊野合気会＝津村しおり◆彩昭会＝松田優輔◆綾瀬市・海老名市合気会＝藤田浩気◆小林道場＝A.Bauer、E.Lai、K.Endre◆かながわ合気道会＝田中将史◆PHILIPPINES＝R. Tolentino◆U.S.A.　＝E.Lynch、M.Klam、L.Baldwin、C.Wise、S.Pillaipakkam、M. Dejoya、G.Miller、J.Stueve、K.Koenig、A.Villarosa◆BRAZIL＝M.Lima、L.Lapertosa、M.Ferreira、M.Leme、L.Mantovani、A.Cerqueira、L.Tonon、A.Souza、T.Salloum、J.Custodio◆AUSTRIA＝J.Ladenhauf、G.Hueber◆PORTUGAL＝J. Pereira◆RUSSIA＝V. Belkov、D. Zlokazov◆ARGENTINA＝J.Garfagnoli、M.Vitellozzi、E.Valle、C.Pereyra、B.Hidalgo◆EGYPT＝M.Khattab、S.Anwar、M.Mohamed◆TATARSTAN＝A. Ionov◆SPAIN＝N. Dwyer、A. Hermosa、P.Amada、M.Rodriguez、F.Linarez、J.Penas、I. Amerigo◆UKRAINE＝S.Glabets、M.Kovalenko、D.Blyzno、Y.Startsev◆SWITZERLAND＝C. Mathenet、D. Noviello、J.Kohler、M.Stocker、I.Cristani、J.Luder、P.Kempf、T.Zeilmann◆CANADA＝M.Goudsblom◆GERMANY＝A.Greb◆AUSTRALIA＝S.Bhurtun、W.Wilson

【弐段】
◆青森道場＝八戸慎幸◆山口合気会山口道場＝新里さおり◆合気道凱風館＝田守浩子◆武産浦帆道場＝近藤友美◆合気道武徳道場＝玉置真悟、福居久美◆群馬合気会＝熊迫奈緒美◆広島合気会＝西原佑樹◆合気道三浦＝尾原秀一◆小田原合気会＝矢口愛◆湘南翡翠合気道クラブ＝竹ノ内健一◆祥平塾＝松田建治、上田英子、K.Shaw、A.Aliwalas、A.Tuazon、高橋理絵、伊藤愛美、藤井史子、中城由紀子、湯田由布、弓削田天音◆城東誠和会＝矢吹尚也◆西脇道場＝奥野文寿◆時空館道場＝平林元廣◆大阪武育会＝光成佳奈、天野英樹、本田聡、瀧口慈勇、楠本浩之、西野盛隆◆竹豊館＝鳥居眞規人、遠藤司◆中野区合気道会＝三浦和風、新田義雄◆合気道浦和尾又道場＝羽根田陽一◆合気道敷島塾＝田村達夫、藤澤健司、四宮守人、藤井えみ、板野徳志、岡本博文、小西孝英、中村浩也◆合気道八幡浜道場＝福田翔一朗、井上宗大郎◆麻生同心会＝太田悠飛◆合気道平成会＝本間明子◆兵庫合気会＝西谷充江、モス・ポール・アラン、山田沙織、加島光、福井敬子◆五十嵐道場＝杉山保弘◆合気道敬道館道場＝右馬美佐◆春風合気道会＝濵﨑栄子◆板橋合気倶楽部明友会＝林俊輔◆合気道逍遥会＝占部大◆あいきのまなびや＝尾﨑絵俚◆彩昭会＝佐野愛梨、H.Uyen◆小林道場＝L.Tavcar、S.Alnafis、B.Kozicki、S.Rooman、Y.Valgaerts、J.Morris、K.Peter、F.Peter、M.Zsolt、L.Acs、P.Tamas◆かながわ合気道会＝室賀安隆◆穎明館中学高等学校＝税所暖大、有泉杏華◆金沢大学＝箕輪晴哉◆千葉工業大学＝遠藤咲◆大阪大学体育会合気道部＝中山裕貴、岡田卓巳◆東京農工大学＝森田雅也◆北九州市立大学＝妙圓園陸生◆SLOVAK＝D.Muller、P.Hudacek◆BRAZIL＝R.Ferreira、C.Santos、R.Leite、L.Souza、J. Ferreira◆PORTUGAL＝A. Ferraz、S. Marques◆ARGENTINA＝S. Cirielli、T. Cuccaro、G.Caride、S.Mesa、M.Latigan、G.Diaz、J.Goitea、B.Ricupero◆EGYPT＝N.Sultan、A.Abdelmouiz◆GERMANY＝N.Wilckens、M.Brueggler、M.Brade◆IRELAND＝G.Ring◆RUSSIA＝V.Kurnosov、V.Khokhlov、A.Bityaykin、I.Radchenko、S.Zelinskiy、A.Kolotov、V.Stepanov、A.Kazakova、L.Anpadistov◆TATARSTAN＝S.Ibragimov、E.Roganov、N.Dushin、I.Sabirov◆TUNISIA＝C.Mansour、W.Boujnah、J.Lotfi、M.Bouhlel、N.Abdessalem、R.Cheikh、F.Kamel、G.Ladhari、R.Abdessalem◆U.S.A.　＝D.Cicerchi、L.Russell、W.Chen、S.Jeffreys、D.Fitzgerald、P.Hennes、A.Fqihi、M.Geery、M.Giancola、S.Kiebdaj、E.Vollrath◆U.K.　＝P.Shepherd、A. Jigoulina◆ITALY＝R. Dobric、B. Vladimirov◆MACEDONIA＝M. Dojcinovska、M.Apostolovski◆UKRAINE＝S.Cherevko、M. Siska、O. Riabytskyi、A. Kugaivskyi◆SPAIN＝S.Mozota、J.Lumbreras、C.Vallespi、S.Vallespi、M.Belver、J. Morales、J.Diaz、J.Guerrero、A.Prieto、A.Ecay、M.Ruiz、M.Garcia、A.Baides、C.Torres、E.Orea、S.Schmidt◆SWITZERLAND＝A.Cappelletti、Z.Strassle、G.Horak、N.Pin、S.Touche、T.Anastasi◆SLOVENIA＝R.Leskoviansky◆DENMARK＝T.Worm◆AUSTRALIA＝A.Liu、D.Cortes◆SINGAPORE＝R.Limbu、S.Rai、K.Limbu、H.Pun◆中国＝侯瑞雄、李尚澧

【初段】
◆山口合気会真福寺研修館道場＝上田夏萌◆合気道凱風館＝清水隆晴、朝倉民枝◆無為会＝宋文強、嶋津貴史◆合気道奥州道場＝安倍富穂◆丸亀道場＝松本国敏◆吉照塾＝秋山昌廣◆熊野塾＝A.Tursunov、A.Bashlanov、I.Kovalenko、R.Kokebayev◆鍬守道場＝滝口幸子◆合心館谷本会＝茂木謙知、加藤健二◆合気道三浦＝田村謙明◆ビタース合気道クラブ＝関根拓夫◆合気道四日市合気会＝位田剣◆小田原合気会＝田代誠、徳永孝典◆尚武館＝萩原康夫、小池諒佳◆湘南翡翠合気道クラブ＝山根賢司◆祥平塾＝村上恵、T.Baytukalov、リー愛、植田美穂、上村辰二、福本修治、谷川勇仁◆新潟合気会＝清水晶◆小林道場＝A.Gallo、A.Brumat、B.Spies、D.Pirc、D.Torkar、B.Karoly、N.Tamas、S.Dominik、M.Vince◆城東誠和会＝長谷川颯◆清進塾＝山川浩司◆相模和道会＝西川瑠華◆大阪武育会＝三島歩華、宮森涼輔、植松鼓汰朗、前田達矢、阪口華彩綺◆合気道天正会＝森尾和史、髙田美智子、山下啓一◆竹豊館＝西脇雅子◆天草八顕会＝明利久美◆合気道敷島塾＝中村敏子◆八起会＝石井拡一◆合気道白河道場＝有我壽雄◆麻生同心会＝太田陽夕◆明清会＝浅見涼◆合気道平成会＝澤田幸夫◆合気道光輝会＝木下明穂◆兵庫合気会＝前田繁、丸山克巳◆守清館＝宮田怜子、早坂風香◆あいきのまなびや＝谷村幸代◆徳親館＝木下緋龍◆伊丹市民合気道＝宮本一世◆かながわ合気道会＝吉沢謙一、布野聡一朗、南部麻紀子、工藤隆志、西岡雅巳◆多摩大学目黒中学校高等学校＝戸田彪牙◆関西学院大学体育会合気道部＝小山泰広◆金沢大学＝清水陸哉、鈴木美和、中島史貴、藤江敦也、松浦舜、向井涼◆広島修道大学＝深野琴心、加川太一、竹下陽貴、益田祐真、三好和樹◆中京大学＝阿部緋紗、陣内涼太◆東京経済大学＝布施秋人、皆田将史、荒木心太朗、田部夏帆、鹿野泰世◆東京農工大学＝浅倉一史、清水美里◆北九州市立大学＝濵鍛智生、泉壮飛◆金城学院大学合気道部＝水田佑実、寺田愛実◆神奈川大学＝亀友美南、金子徳良◆GERMANY＝K. Winkelmann、M. Westerkamp◆IRELAND＝T. Graham◆ECUADOR＝A. Burbano◆SLOVAK＝B. Blahova、P. Moravansky、P.Dubravsky、M.Smid、M. Harcek、J.Burik◆BRAZIL＝R.Santana、V.Rosa、P.Moraes、A.Gouvea、L.Silveira、E.Pereira、G.Uehara、J.Yokoda、M.Yoshioka、R.Manechini、D.Azevedo、J.Douro、J.Garcia、L.Siqueira、F.Moletta、S.Nievas、J.Eid、O.SouzaJr.、T.Boaventura、V.Mello、G.Santos、T.Oliveira◆AUSTRIA＝F.Wahner、E. Grundner◆PORTUGAL＝D. Lourenco◆U.S.A.　＝K.Vanry、A.Saad、S. Peterson、M. Ignowski、D. Crow、M. Borges、O.Gorlach、C.Ticknor、A.Dominguez、C.Zhang、J.Brissette、J.Burt、T. Corley、L.Cruz、C.Ghalambor、J.Halverson、D.Harteveld、M.Hester、N.Nicholson、K. Peterson、N.Pierre、A.Sarabian、S.Scott、E.Oliveira、M.Zgela◆ARGENTINA＝C.Bianchi、R.Casadesus、O.Siervi、N.Gerez、C.Hagberg、K.Herran、J.Mazzini、P.Piccione、F.Pieressa、M.Pinto、J.Roma、H. Vizzolini、N.Lara、S.Alarcon◆EGYPT＝A.Mohamed、M.Guirguis、M.Hassan、S. Hassan、M.Mohamed、M.Mohamed、H.Sallam、S.Elfiky、N.Gadelmawla、A.Mahmoud、M.Elmaghraby、H.Elsayed、N.Hussein、E. Marzouk、M.Koleilat、F.Sonoyama、R.Arar、M. Zeyada、Z. Wahba◆FRANCE＝A. Vespierre、P.Quintin◆TURKEY＝D.Ozalp◆RUSSIA＝S.Gabdrahmanov、A.Gabdrahmanova、P.Kazanov、D.Balbekov、E.Kulakovskii、I. Tenyaev、A. Afanasyeva、L. Bakanova、O. Akimov、V. Timofeev、Y. Frolov◆NETHERLANDS＝A. Farro、J. Brouwer◆TATARSTAN＝M.Pogiarsky、A. Kobelev、A. Kolesov◆TUNISIA＝I. Khaled、S.Mahjoub、A.Hassine、M.Bouhlel、H.Bader、T.Abdessalem、R.Mekacher◆ITALY＝N. Gerov◆INDIA＝P. Mahajan◆MACEDONIA＝V.Jegeni◆SPAIN＝J.Barcenas、P.Martinez、I.Sanchez、T.Orozco、M.Gil、L.Cena、H.Quiros、F.Gonzalez、A.Hernandez、A.Soler、L.Rademakers、M. Alonso、M.Puentes、S.Fresquet、A.Aleman、A.Gaufille、B.Claveras◆SWITZERLAND＝E.Reizner、O.Karolius、O.Curran、A.Maggia、S.Pavone◆IRAQ＝M.Samarraee◆POLAND＝R.Milczarek、F.Sowinski、M.Rychlak、D. Pospieszynska、S. Stypula◆UKRAINE＝Y.Kovalchuk、A.Zherdetskyi、A.Maksymov◆GREECE＝S.Spirliadou◆CZECH＝V.Zemanova、V.Zahorova◆SINGAPORE＝P.Kedem、S.Pandhak、P.Magar、R.Rai、M.Ghale、A.Ghale◆中華民国台湾＝陳鑾

秋山兄弟道場

愛媛県松山市にある、日露戦争で活躍した秋山好古、真之兄弟所縁の秋山兄弟合気道道場設立20周年の式典が10月20日、秋山兄弟生誕地に隣接する常盤道場で、A・K・I武田義信師範、栗林孝典本部道場指導部師範を招いて開催された。この日は、前日の雨も止み、やや凛として秋らしい爽やかな空気に包まれた。

式典には、秋山兄弟合気道道場だけでなく永年秋山道場で指導にあたった故鈴木茂師範ゆかりの道場、さらに交流のあるデンマークからの参加者もいて盛大に行われた。

式典の後には栗林師範指導による稽古が行われ、人体構造やそのつながりを意識したわかりやすい解説を受けながら汗を流した。無理に力を入れない動き方や相手を導く体の使い方などを教授後に行う中で、今までの自分の動きの癖が出ること、無理なく誘導して崩すことの難しさを改めて実感していた。

前日には、秋山兄弟合気道道場の設立に尽力し、故人となられた平松昇元常盤同郷会理事長、元参議院議員で秋山真之氏の孫にあたる大石尚子氏、秋山兄弟道場の指導者として道場の興隆に尽力した鈴木茂師範の追悼のために来場された武田義信師範のご指導も仰ぐことができた。(秋山兄弟合氣道道場　石﨑俊郎)

新宿スポーツセンター

新宿スポーツセンター合気道教室は10月26日、金澤威本部道場指導部師範をお迎えし、20周年記念講習会を新宿スポーツセンター第一武道場にて開催した。

講習会には当会会員はじめ、本部道場、茨城支部道場、合気道三心会、合気道仁昌会、大山合気道クラブ、文京区合気会、港区合気会、れいめい会などゆかりのある道場から約80名の方々が参加した。

祝賀会はスポーツセンター近くのビストロAventiで行われ、約50名の方々が参加した。会の歴史と今日の講習会を振り返りながら和やかに歓談して交流を深め、盛会のうちに幕を閉じた。(新宿スポーツセンター合気道教室指導担当　壬生明子)

武道スポーツフェス

武道・スポーツフェスティバル2024初めての武道体験が、10月14日に東京武道館にて行われた。

本イベントはスポーツの日にちなんで例年開催されており、柔道、なぎなた、空手道、杖道、少林寺拳法、剣道、居合道、弓道、合気道が体験会を行った。合気道の講師として、難波弘之本部道場指導部師範、藤田すみれ同指導員が派遣され、体験会の指導を行った。

小学生以上を対象とした45分間の体験が4回行われ、それぞれ4名から20名程度の参加があった。親子で参加している姿も多く見られた。

体験では、基本の体捌きや後ろ受身を行った後、一教や小手返しなどの技を行った。参加者は体験を通じて武道への理解を大いに深めた。